

# おぎ だより

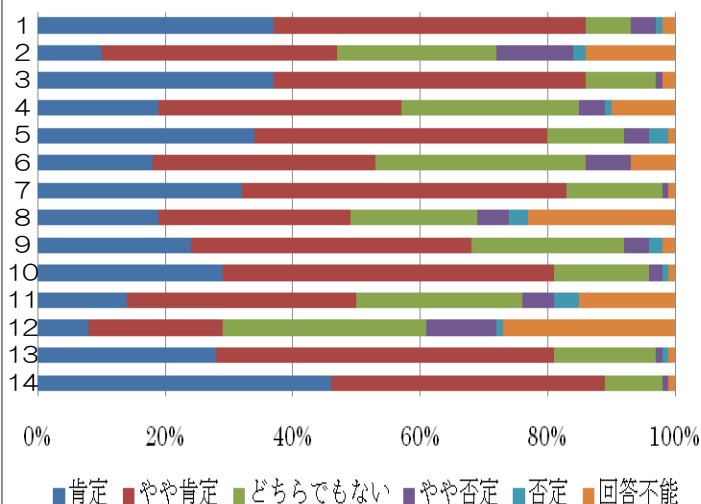
杉並区立井荻小学校 平成26年3月7日発行 特別号

## 平成25年度 学校評価（自己評価）の結果について

副校長 小谷 恒司

寒さの中にも春の訪れを感じる季節となりました。保護者の皆様の本校教育活動に対するご理解とご支援に心より感謝申し上げます。昨年実施し、保護者の皆様よりご回答いただきました教育調査の集計が終わりました。結果と考察をお知らせし、来年度の教育計画に活かしていきたいと思っております。

平成25年度保護者からの回答による結果



	肯定率
1 経営全般	86.0%
2 小中一貫教育	46.3%
3 特色ある教育活動	85.5%
4 学校評価	56.6%
5 学級経営	79.8%
6 個に応じた指導	52.5%
7 学習評価	81.4%
8 生活指導体制	47.9%
9 道徳教育	67.4%
10 体育・健康教育	80.6%
11 教育相談体制	50.8%
12 特別支援教育	28.1%
13 危機管理体制	79.8%
14 地域との協働	88.4%

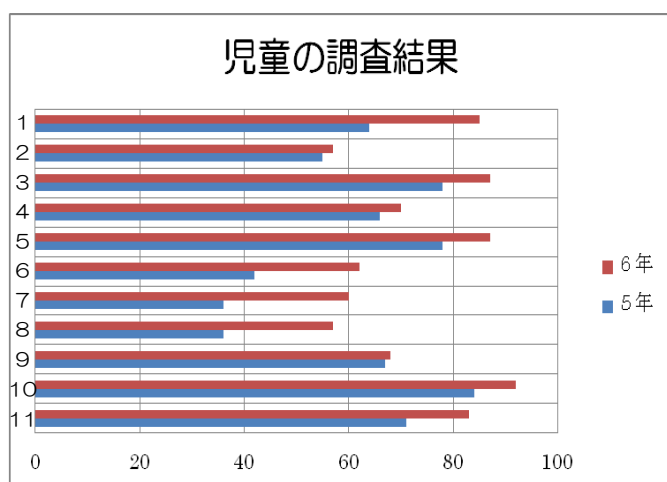
### 【考察と対応】

「子供の学校生活に満足している。」をはじめ「特色ある教育活動」や「子どもが安心して学校生活を送ることのできる学級づくりが行われている。」の項目や「学習評価」、「体育・健康教育」、「危機管理体制」の質問など、14項目中7項目において保護者の皆様からおよそ80%かそれを上回る高い肯定率の回答をいただくことができました。これは、豊かな自然環境に囲まれた井荻小学校の特色ある教育活動として、2年生の「虫取り体験」や3年生から6年生で実施した「野鳥観察」、「川の観察活動」が定着してきた結果と考えられます。また、学校支援本部の皆様からの強いご支援をいただきながらの活動を広く保護者の皆様へお知らせすることができたと考えております。これからも、更に充実させ取り組んでまいります。

一方、「小中一貫教育」や「特別支援教育」に関する項目では「どちらでもない」と「回答不能」の回答が多く、高い肯定率は得られませんでした。「小中一貫教育」への取り組みにおいては、教員間での研修会の開催、5・6年生の児童が荻中生と一緒に取り組んだ「善福寺川合同清掃活動」や5年生の荻中での「授業体験」、荻中生による「読み聞かせ」の交流等さまざまな活動を展開しているにもかかわらず、その活動の様子を保護者の皆様にしっかりとお伝えすることができていないと反省しています。また、「特別支援教育」への取り組みにおいては、「スタディールーム」の活用や特別支援教育コーディネーター等のメンバーによる校内支援体制での取り組みについて、活動の様子を詳しくお伝えすることができませんでした。今後は、保護者の皆様にしっかり情報を発信し、伝えられるように努めてまいります。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。

(保護者用教育調査の質問)

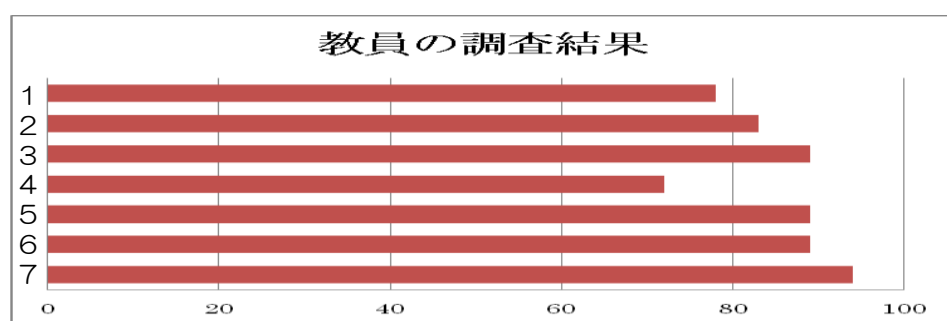
1	子供の学校生活に満足している。	8	いじめや不登校などの課題が起きたとき、教員が協力し、解決に向けて迅速に取り組んでいる。
2	子供の実態、学校や地域の実情を踏まえ、義務教育9年間を通した一貫性のある教育が進められている。	9	学校での生活を通して、子供に、人も物も大切にしようとする心が育っていていると実感している。
3	特色ある教育活動は学校や地域に特有の課題解決を通じて子供たちの成長によい効果をもたらしている。	10	学校での生活を通して、子供に、健康な生活を送る力が育っていていると実感している。
4	学校が自校の教育活動に対する評価を行った結果について適切に情報提供を受けている。	11	子供が人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校がその解決を支援してくれている。
5	子供が安心して学校生活を送ることのできる学級づくりが行われている。	12	特別支援教育や発達障害を理解するための情報提供が十分になされている。
6	全ての子供に確実に力を付けることを目指した授業が行われている。	13	学校は、様々な災害に対するための体制・準備が整っている。
7	子供の学習について、適切な評価を受けている。	14	家庭・地域・学校が協力して子供の成長を促している。



1	先生は、みんなで協力できるようにしてくれます。
2	先生が個別に教えてくれる時間があります。
3	分かることやできることが少しずつ増えてきています。
4	先生たちは、授業でできたことをほめてくれます。
5	先生たちは、学んだことを使って学習を教えてください。
6	人間関係について振り返る時間があります。
7	生活をよりよくするための工夫の仕方を教えてください。
8	悩んだとき、相談できるスクールカウンセラーの先生がいます。
9	障害のある人とふれあったり障害について学んだりします。
10	地震や火事の際にどうしたらよいかについて学んでいます。
11	地域の人と協力しながら、学校生活をよくしようとしています。

【児童の結果から】

「授業を受けることで、分かることやできることが少しずつ増えてきています。」や「先生たちは、今までに学んだことを使って学習することを教えてください。」や「地震や火事が起きたときにどうしたらよいかについて、しっかりと学んでいます。」の質問に対して児童の肯定率が高くなっているのは、学習指導において児童が安心して授業を受けられているためと考えられます。また、「先生たちは、地域の人と協力しながら、私たちの授業や学校生活をよりよくしようとしています。」の肯定率が高いのは、学校支援本部の方々と共に野鳥観察や川の観察に取り組んできた結果と考えられます。



1	一貫した学習指導計画
2	個に応じた指導
3	系統的・連続的指導
4	異校種の協働
5	個別支援計画校内委員会
6	個別指導計画
7	ICT機器活用

【教員の結果から】

「学習指導要領に示される教科等の目標や内容の系統性を理解し、学年や校種の接続を意識した授業を行っている。」や「特別な教育ニーズのある児童に対して、校内委員会で組織的に把握し、個別の教育支援計画を作成している。」の項目や「授業のねらいや児童の実態に応じ、意図的・計画的に ICT 機器を活用した授業を行っている。」の項目には、全ての教員が力を入れて取り組んでいると回答しています。しかし、小中一貫教育だけでなく、今年度から取り組みが始まった幼保小連携教育への取り組みをどのように推進していくかが今後の課題です。